

会 議 録

会議名	令和元年度 「印西市地域福祉計画推進委員会委員」及び「印西市地域福祉計画策定委員会委員」 委嘱状交付式 第1回印西市地域福祉計画策定委員会
開催日時	令和元年8月26日（月）午前10時00分から正午まで
開催場所	会議棟204会議室
出席委員	松山 毅委員長、吉野 康夫副委員長、小林 久男委員、関野 庄悦委員、山下 順三委員、 本田 薫委員、岩本 清委員、渡邊 勝久委員、山野 幸子委員、近藤 幸一郎委員、 三島木 健委員、中村 智恵子委員、山口 茂委員 計13名
欠席委員	計 0名
出席職員等	〔福祉部〕 染谷福祉部長 〔事務局〕 社会福祉課 富澤課長、平川課長補佐、武藤係長、石井主査 〔事業者〕 株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所
傍聴者	2名
会議次第 議 題	＜委嘱状交付式＞ 1. 開 会 2. 委嘱状交付 3. 閉会 ＜策定委員会＞ 1. 開会 2. 福祉部長挨拶 3. 委員及び事務局紹介 4. 議 事 （1）委員長及び副委員長の選出について （2）地域福祉計画について （3）地域福祉計画の策定に係るアンケート調査について 5. そ の 他 6. 閉 会
配付資料	・「印西市地域福祉計画推進委員会委員」及び「印西市地域福祉計画策定委員会委員」 委嘱状交付式 次第 ・令和元年度第1回印西市地域福祉計画策定委員会 次第 ・委員名簿 ・印西市地域福祉計画策定委員会設置要綱 ・【資料1】地域福祉計画について ・【資料1－別紙】「我が事・丸ごと」の地域づくりについて ・【資料2－1】アンケート調査の概要 ・【資料2－2】印西市地域福祉に関する市民アンケート調査 ～ご協力のお願ひ～ ・【資料2－3】印西市地域福祉に関する団体アンケート調査 ～ご協力のお願ひ～ ・印西市地域福祉に関する市民・団体アンケート調査に係る意見・要望

会議概要・審議経過

<委嘱状交付式>

1 開 会

「第3次印西市地域福祉計画推進委員会委員」及び「第4次印西市地域福祉計画策定委員会委員」を委嘱する。

2 委嘱状交付

福祉部長より委嘱状の交付

3 閉会

<策定委員会>

1 開 会

資料の確認

2 福祉部長挨拶

染谷福祉部長からの挨拶

3 委員及び事務局紹介

委員の自己紹介

事務局職員の自己紹介

染谷福祉部長退席

ジャパンインターナショナル総合研究所研究員の自己紹介

【事 務 局】 会議録の確定は、市民会議または審議会等が指名した委員による承認とし、名簿順に2名の委員の署名としたいがいかがか。

【委 員】 異議無し。

【事 務 局】 「印西市地域福祉計画策定委員会設置要綱」の規定により委員長が議長となるが、新委員長が決まるまでの間、富澤社会福祉課長に臨時議長をお願いしたいがいかがか。

【委 員】 異議無し。

4 協議等

【議 長】 13名全員の出席により会議が成立することを報告。
傍聴人は随時入室可能。
議事録の署名人は、委員長・副委員長選出後、議長の選出としたいがいかがか。

【委 員】 異議無し。

(1) 委員長及び副委員長の選出について

- 【議 長】 委員長・副委員長の選出は、会議の設置要綱の規定により委員の互選となるが、推薦をお願いしたい。
- 【委 員】 「第3次印西市地域福祉計画推進委員会」の委員長・副委員長に引き続きお願いしたい。
- 【委 員】 異議無し。
- 【議 長】 松山委員に委員長を、吉野委員に副委員長をお願いしたい。

— 休憩 —

- 【委員長】 印西市は、合併もしてかなり広く、新築住宅もどんどん建ち、子どもが増えているため子育て支援が課題となっている。一方、高齢化や社会的孤立の問題も深刻となっている。様々な地域特性の課題を抱えながら、どのようなまちづくりをしていくかを考え、計画づくりを進めていかなければならない。協力をお願いする。
- 【副委員長】 今後も増え続ける高齢者に対し、やさしい計画を作っていかなければならない。スムーズに進めていけるように努力したい。

— 議長を委員長に交代 —

- 【議 長】 本日の会議の議事録署名人は、山野委員と三島木委員をお願いする。

(2) 地域福祉計画について

○事務局より説明

○質疑

- 【議 長】 資料1の3ページの策定スケジュールにおける推進委員会の位置付けと、地域懇談会の具体的な内容で決まっていることはあるか。
- 【事務局】 「第3次印西市地域福祉計画」が令和2年度まで進行中で、推進委員会はそちらのスケジュールで進めていく。今年度はあと1回開催する予定である。
- 【事業者】 地域懇談会については、市内を4ブロックに分け、ブロックごとに2回ずつ開催する予定である。1回目で地域の課題や現状の洗い出しを行い、2回目で解決策を話し合っていたくように考えている。
- 【事務局】 詳細については、12月開催予定の第2回策定委員会で協議したい。
- 【委 員】 4ブロックとは、地域で分けるのか。高齢者問題を抱えている所とそれ以外等の立場を考慮した分け方なのか。

- 【事 業 者】 地域で分ける。
- 【委 員】 単に地域で分けてもあまり意味が無いのではないかと。元々いる住民の地域や以前はニュータウンと言われた地域、さらに現在新しくできている地域では、問題はかなり異なっている。そういった切り口の懇談会のほうが、意味があると思われる。
- 【委 員】 地域懇談会の対象者は、一般周知で集めるのか、主要な団体をメインに集めるのか。
- 【事 務 局】 今回行う市民アンケートと団体アンケートで、周知および募集を行う。予定している30名程度の定員を超えた場合は抽選にする。
- 【委 員】 アンケートの対象とならなかった方が参加したい場合はどうすればよいか。
- 【事 務 局】 印西市のホームページや広報等でもお知らせする。
- 【委 員】 ホームページや広報で周知した結果、どのくらいの市民が集まるのか。各地域から色々な意見を吸い上げるためには、募集方法の検討が必要である。
- 【議 長】 ジャパン総研の方は他の自治体の経験がおありだが、印西市規模の自治体で市民の募集をした場合集まるものであるか。
- 【事 業 者】 実際にはアンケートを出した中で数パーセントしか集まらない。30人ずつ4ブロックで120人を集めることはなかなか厳しい。ホームページや広報で募集しても応募はあまり無く、団体の方やその周りの方に声かけをして集めている自治体が多い。
- 【委 員】 資料1の2ページの、計画策定の背景や目的および「我が事・丸ごと」の地域福祉における包括的な支援について、理解はできるが印西市固有のものではない。印西市は現在、年齢構成や意識などの格差が非常にあるため、印西市の姿が見える計画にしていきたい。印西市の実態をどう捉えているのか。
- 【事 務 局】 地域により全く違う状況であることは理解している。4ブロックに分けただけでは地域の実情は把握できないと思われるため、懇談会の地区割りについては検討したい。
- 【事 業 者】 今回の資料は1回目の会議のための地域福祉に関する基本的な概要を用意しており、地域の細かい具体的な課題については、アンケートを通じて抽出し、統計データから特性を割り出し、今後示していく。
- 【委 員】 「第3次印西市地域福祉計画」において、高齢者への施策は行き届いてきていると思われるが、子どもたちへの支援の姿が見えない。弱者である子どもたちの居場所づくり等の対策案はあるのか。
- 【議 長】 それは、アンケート調査の結果によって、対象者や対策方法が検討されていく。

- 【委 員】 「第3次印西市地域福祉計画」が現在進行中であるが、その理念や結果を検討せずに「第4次印西市地域福祉計画」を策定するのか。第4次策定委員は第3次推進委員でもあるので、両計画を関連付けていかなければならないのではないのか。
- 【事 務 局】 現在進行している「第3次印西市地域福祉計画」は毎年評価している。その評価を基に第4次に引き継ぐ考え方や事業も検討していく。
- 【委 員】 策定委員会と推進委員会の関連付けはどうなるのか。
- 【事 業 者】 最終的には来年6月に、骨子案という形で、現行計画の取り組み評価のまとめとして課題を提出する予定である。
- 【議 長】 本日の会議は第1回目のため、「第4次印西市地域福祉計画」の策定方針や策定方法が示されるべきである。第3次計画から第4次計画への継承方法や、策定方針の中に新しい課題抽出のための住民懇談会の開催や市民アンケートの実施といった方法が見えてくると、今までの議論は解決する。地域懇談会を1、2月に実施するためには、12月の策定委員会で議論したのでは間に合わないので、本日具体的な方法まで話し合っていた。第3次計画の中間評価を基に、できなかった部分をどうしたらいいかといった議題を懇談会で提案すれば、議論がしやすくなる。議論して欲しい具体的なテーマを検討していただきたい。次回の会議では、策定方針と方法の関連付けを示して欲しい。

(3) 地域福祉計画の策定に係るアンケート調査について

○事務局より説明

- 【事 務 局】 アンケートは本日配布したため、意見等が後ほどあった場合は、お手元の用紙に記入の上、明日の17時までにFAXやメール等でご連絡いただきたい。次回からは資料は事前に配布する。

○質疑

- 【委 員】 印西市に在住の18歳以上の3,000人からアンケートを取るということであるが、印西市在住の18歳以上の方は何人か。
- 【事 務 局】 83,000人である。
- 【委 員】 それでは、何パーセントになるか。3,000にしたのはなぜか。
- 【事 務 局】 統計学上の有意義なサンプル数が83,000に対しては約400となる。400ではあまりに少ないため、3,000と設定した。3,000人に依頼しても全部返ってくるわけではなく、50%の回収率として1,500のサンプル数を想定した。
- 【委 員】 前回のアンケートでは何件だったのか。

- 【事務局】 前回も3,000件である。
- 【委員】 人口が増えてもアンケート対象者数は増えていないということか。
アンケートの内容について、増えた項目、減った項目、ポイントとなる項目は何か。
- 【事業者】 「問10身近な地域で気になること、問題と覚えることがありますか。」を追加した。
問12～14で、前回は「ボランティア活動」についてだけの問いであった項目に、「地域での活動」も追加した。
「問23あなたやご家族は、福祉サービスの利用に関して、これまでに不都合を感じたり、不満に思ったことはありますか。」も追加した。
全体的に、選択肢を変更した所もあるが、前回のアンケートと同様に時系列で並べ、比較できるようにした。
- 【委員】 問10は、第3次計画の策定委員会においても議論の対象となったため、今回盛り込まれたことはよかったと思う。さらに追加すべきものがあつたら提案したい。
- 【委員】 アンケート対象者の年齢や居住地区等は質問項目としてあるが、居住する住居が、一戸建てかマンションか団地か賃貸か等の問いが無い。それによって意識が随分異なると思われるので、加えたほうがいいのか。
- 【事業者】 加えるように検討する。
- 【委員】 団体アンケート調査の対象者として、民生委員は一人一人て回答することになると思われるが、社会福祉協議会は団体として1つと数えるのか。委員やボランティア等、間口を広げて増やせないか。
- 【事務局】 130名ほどの民生委員は全員を対象とする。各支部社協からは民生委員と重複していない方を1人ずつ出していただき、計8名となる。また、市の社会福祉法人から7名で、総数約150名となる。前回のアンケートでは民生委員のみを対象としていた。
- 【委員】 支部の責任者は、たいてい民生委員と兼ねている。兼ねていない支部の方全員にお願いしたほうがいいのか。
- 【事務局】 支部社協の委員数は何人くらいか。
- 【委員】 支部によって、理事は15～30名くらいである。
- 【委員】 半数以上は民生委員である。
- 【議長】 団体向けのアンケート調査を行うのであれば、目的を明確にしたほうがいい。支部の代表として回答しても、それは支部で話し合った結果ではなく、回答者個人の意見である。団体の意見を聞くにはヒアリングがよく用いられる方法である。団体はそれぞれ

れ何らかの課題を解決するために活動しているため、その活動に際し困っていることなどを聞くことに意味がある。聞き取る方法を検討していただきたい。

【委 員】 市民アンケートの２ページに「地位福祉って何？」という説明があるが、さらに具体的に、今まで印西市が行ってきた福祉行政やその効果および今起きている問題等を示さないと回答しにくい。以前の状況と比較しながら回答できるように検討していただきたい。

一般的にアンケート調査では、事の重要性は理解していても実際の行動には消極的であるとの結果が出る。その消極的な方を巻き込むような計画を作っていないと、なかなか具体的な効果は表れない。アンケート結果の裏に潜む内容をどう分析するかが重要である。そのためには、パブリックコメントや対象者を考慮した地域懇談会等と合わせて地域の特徴のある意見を吸い上げなければならない。印西市市民参加推進委員会において問題になっているのは、市民への周知方法である。パブリックコメント等では意見を出す方は数名だが、１人が多くの意見を出すため件数としては多くなる。賛成意見が多い中でいかに反対意見をつかみ取るかが大切である。

【議 長】 市民アンケートで、市への愛着の無さや活動への参加に消極的な意見があった場合は、その理由を聞くことで、そういった方を減らしていくことができると思われる。

また、アンケートの最後に「(仮称) 地域みらい懇談会」の参加者募集を入れているが、無記名のアンケートに氏名を記入することになり矛盾している。ここでは周知にとどめ、応募方法を示してはどうか。

アンケート項目については、結果を集計し分析する上で重要になるため、後でよく検討しご意見をいただきたい。

【委 員】 地域懇談会のイメージがつかめない。

【事 業 者】 まず、地域福祉の説明や印西市が行ってきた施策を紹介する。その後、グループに分かれ、生活上の課題の情報を出し合い、模造紙に付箋を貼っていき発表していただく。課題の解決方法を話し合い、解決策を見出すことができればいいが、１回目の懇談会ではまず課題を共有することが大切であると考えます。

【委 員】 今まで色々な懇談会に参加してきたが、いつも同じような形である。立派な冊子を作り、一生懸命やってはいるが、市民が意識するところまでは到達していない。また、アンケートは実際にやってみると難しい。印西市のどこに住んでいるかだけではなく、何年住んでいるかによっても愛着に関する意識がかなり違ってくると思われる。条件により結果も複雑となるため、分析するのは大変である。懇談会もアンケートもこつこつとやっていくことが重要で、できるだけ協力していきたい。

【委 員】 現在の印西市の課題が明確ではない。第３次計画の課題が見えてくるのが１２月であるので結果を聞いてみたい。

アンケートは３，０００件配布して１，５００件の回収を見込んでいるとのことだが、予算があるならばもっと増やせないか。高齢者の多い地区でも福祉に関してあまり関

心の無い所もある。新しく入居されてきた方も多くおり、数多くの方のアンケート結果を見てみたい。

【委員】 社会福祉協議会や民生委員に対しどのように周知するのか、懇談会はどのように進めればいいのか、いい方法があれば教えていただきたい。

【委員】 アンケートを取り、現在の問題点を洗い出すことは必要であるが、今までの計画の中にうまく進んでいないものが多数ある。新しい課題を取り上げるよりも、今までの課題をもっと徹底させることに力を入れるべきではないか。印西市は合併し10年経つが、3地区の差が非常にあるため施策が均一にできない。福祉だけで解決することはできないが、「我が事・丸ごと」といった本質的なことを計画の基本としてやっていくべきではないかと思う。

【委員】 アンケート調査により、市民の考え方や反応がわかるだけでもメリットはあるのではないか。4ブロックに分けるということであるが、アンケートは人口に対する割合で抽出するのか。

【事業者】 アンケート調査は市全体から対象者を抽出して行う。

【議長】 抽出する際には世代も考慮せずに無作為で行うのか。

【副委員長】 地元の意見は大切で、アンケートにより出てきた交通手段が無いという問題の解消に向け、社会福祉協議会や地域包括支援センターが連携し買い物バスツアーを行っている地域もある。身近な言葉を吸い上げることは大事である。
また、ダブルケアのケースが増えてきているため、対策を計画に盛り込んでいく必要がある。
これからの会議においては、個々に自由に発言していくと審議が進まなくなるため、意見がある場合は挙手により進めて欲しい。

【議長】 本来、アンケートは策定委員会にはかけずに実施し、結果だけを報告するパターンが多い。今回は、アンケートの項目や方法や対象および懇談会のやり方等について、この段階で意見が言えたことはプラスであった。アンケートを取る前に意見が言えるチャンスをいただいているので、お気付きの点があれば是非意見を寄せていただきたい。また、第4次計画は第3次計画の継続である。第3次計画の推進委員会で出た情報周知の問題等に関し、アンケートに反映して市民の情報源について問うことで、第3次から第4次へのつながりが出てくるのではないか。第3次の時点では疑問だったり解決できなかったりしたことをアンケートから読み取ることができれば意義があるものとなる。アンケートの項目については、皆さんからの明日までの意見も含め検討していただきたい。
次回の12月の策定委員会では、第3次計画の報告と、第3次ではできなかったことを第4次では具体的にどのようにやっていくかといった策定方針を協議していきたい。また、地域懇談会ではどのように意見を吸い上げていくかも検討していきたい。

- 【事務局】 推進委員会と策定委員会を同時に開催することで、出席回数も非常に多くなる。同日ではなく、前半を推進委員会、後半を策定委員会とする等、いい開催方法はないか。
- 【委員】 アンケート結果や地域懇談会の意見の集計等、実際の市民の声が入ってこない現状把握ができず、計画策定は難しい。第3次の推進委員会を来年3月まで進めつつ市民の声を把握していったほうが第4次につながると思う。
- 【議長】 全8回予定されている策定委員会の全ての回で推進委員会を開催する必要はなく、必要に応じて入れていく。事務局と委員長・副委員長で打ち合わせ、お知らせするということがいいか。
- 【委員】 異議無し。

5 その他

- 事務局より連絡事項等
- ・次回会議予定について

- 【委員】 会議日程が「予定」となっているが、日にちの指定はできないか。早めに決めていただきたい。
- 【事務局】 なるべく早めにお知らせする。

6 閉会

令和元年度「印西市地域福祉計画推進委員会委員」及び「印西市地域福祉計画策定委員会委員」
委嘱状交付式ならびに第1回印西市地域福祉計画策定委員会の会議録は事実と相違ないことを承認する。

令和元年9月4日

署名委員 山野 幸子

署名委員 三島木 健
